

対話するシンポジウムを開催しました

地方自治研究学会の研究部会が主催してシンポジウムを開催しました。限られた参加者で参加型の対話する方式で行いました。

☆テーマは「ひとをつないでまちづくり」

研究部会では、子どもに注目して、子どもの参加、外国にルーツのある子どもについての調査をしています。子どもを地域で見守るだけでなく、今回は、さまざまなステークホルダーと一緒に参加して自分たちの住むまちをつくっていくという提案をしました。その実現のためには、つながりをつくることが重要ということを確認し、参加者同士もつながっていくことを目的としました。

名古屋都市センターさんと共催でしたので、会場やオンライン配信の機材をお借りしました。

☆対話の方法は

フィッシュボウル（金魚鉢）という方法で行いました。

中心に数個の椅子を置き、その周りに椅子で何重かで円を作って配置します。このとき、中心の椅子に、必ず1つの空席をつくっておきます。これをルールとします。

はじめは、中心の椅子に座っている話題提供者が話をします。周りの椅子に座っていた人で、話したくなった人は空席に座ります。ルールに従って中心に座っていた人は誰か一人は後ろの椅子に移動して、空席を確保します。

話が進んでいって、話したい人が空席に座ると、誰かが後ろに移動する…これを繰り返して対話を続けていきます。



(https://www.ourfutures.net/session_methods/fishbowl より)

☆対面でのシンポジウム

コロナ禍で対面のイベントは減っていました。しかし、直接会っての対話はつながりをつくりやすいことは否めません。対話はデビッド・ボウムも言うように、つながりをつくるためには必要なこと。今後は、ハイブリッドでも、オンライン参加の方々も対面で参加の方々がつながる方法を検討したいと思いました。

*みなさんのご協力により、無事に終えることができました。いろいろな人が集まってわいわいと、自分のできることを持ち寄ることの大切さも痛感したシンポジウムでした。感謝です。